

2014年度 後期		リフレクションペーパー					
学科名	電気通信工学科						
科目名	電気電子数学						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	必修科目(組込システムコース)・必修科目(電気エネルギーコース)・必修科目(情報システムコース)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等関数を微分することができる。</li> <li>・合成関数の微分法を使うことができる。</li> <li>・関数のグラフを描くことができる。</li> <li>・不定積分の基本公式を使うことができる。</li> <li>・置換積分法、部分積分法を使うことができる。簡単な定積分の応用問題が解ける。</li> </ul>						
日程と内容	9月15日 導入・関数と逆関数 9月22日 関数の極限 9月29日 微分係数と導関数 10月 6日 種々の導関数(1) 10月20日 種々の導関数(2) 10月27日 テーラー展開とその応用 11月10日 小試験 11月17日 原始関数と不定積分 11月24日 置換積分と部分積分 12月 1日 部分分数分解による積分・他 12月 8日 定積分・リーマン和 12月15日 種々の定積分 12月22日 積分の応用(面積・体積) 12月23日 積分の応用(変位と速度・実効値) 1月19日 総合復習 1月26日 定期試験						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	到達目標は授業をとおしてすべてカバーすることができた。また、学生の到達度は、小試験と定期試験によって確認できた。						
反省点	すでにある程度微積分に関する知識をもっている学生にとってはものたりない講義内容であったであろう。これらの学生に対しては、たとえばテーラー展開や定積分の応用に関する演習問題を早めに提示しておくこともひとつの手立てであったかもしれない。						
来年度の計画	内容について今年度からの変更点はとくにない。ただし、教科書は変更する。						
授業評価アンケートに対するコメント	数学は工学には不可欠の道具であるが、講義で学習する分野はそのほんの一部でしかない。しかし、講義を通して、数学の考え方や勉強の仕方を身につけてほしい。						
履修登録者数	74名	定期試験 受験者数	66名	合格者数	59名	合格率	89%